

# 夏場の副収入としての菌床アラゲキクラゲ栽培

林業研究部 きのこグループ

## 1. 研究の背景

国内で消費されるキクラゲ類は96%が中国からの輸入品のため国産品の需要が高まっている。大分県の生産量は増加傾向にあり、全国5番目（平成26年次）であるが、生産量を増やすには安定生産や生産者の増加が課題である。また、県内に豊富にあるクヌギを活用した菌床シイタケ栽培技術が確立したことから、シイタケ以外のきのこ栽培への展開が期待されている。

## 2. 研究成果の内容・普及のポイント

### 自然栽培の場合

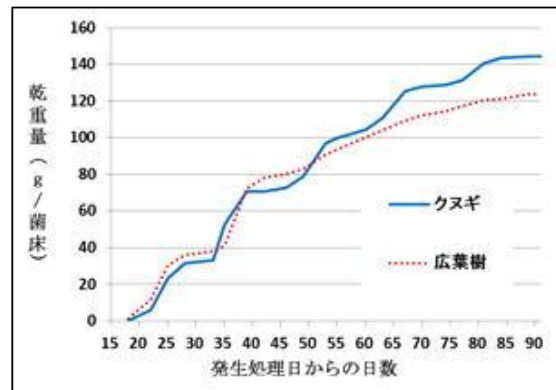
- ①簡易施設を用いた自然栽培方法（5-9月の季節栽培）を確立した。
- ②クヌギ菌床の培地含水率は56%程度に調整することで発生が安定した。
- ③刻み処理後の菌床には、10-20分の散水を1日3-4回実施する。
- ④クヌギ菌床からの発生量は広葉樹菌床と比較して終盤の発生量が多い。



菌床アラゲキクラゲ



発生管理に使用する散水可能な簡易施設



クヌギ菌床から収穫したアラゲキクラゲの累積発生量

## 3. 期待される効果

- ・乾シイタケ生産者の農閑期である夏場の副収入として栽培に取り組める。
- ・県産クヌギを培地材料として使用することで、差別化が図られる。
- ・クヌギ林の更新に繋がる。

## 4. 担当機関連絡先

林業研究部 きのこグループ

TEL：0974-22-4236

住所：豊後大野市三重町赤嶺2369